

帝国主義の腐朽性に抗し  
共同反革命を蜂起-内戦へ!  
共産主義者同盟 (戦旗派)

# 戦旗

12月20日  
5日、20日発行  
411号  
1部 100円  
編集発行人 鹿島 昂  
購読料 1部 20回 2600円  
(郵送料含む)

戦旗社

東京都新宿区新宿5の2の9  
コーポハッピービルE1号  
電話 03 (356) 2982  
電報 東京7-26110

管制塔戦士奪還! 狭山・三里塚決戦勝利! 80年安保粉碎!

## 12・22労共闘政治集会へ!

署名10万突破! 小屋完成!

この成果をうち固め、80年  
代闘争陣形構築へ進撃せよ

全国の同志・友人・兄弟のみなさん!  
管制塔一四戦士年内奪還をめざす一〇万署名運動は、しめきりの十二月一日を前にした五日現在で、ついに一〇万人を突破した。  
九月から始まったこのたたかいは、いまや、北は北海道から南は九州まで全国でとりくまれ、一一・二二五数寄屋橋ハンストを頂点に、各地でハンストや集会がもたれ、文字通り全国的高揚をかちとっている。  
七〇年代最後のたたかいでかちとられたこの偉大な成果は、あの七八年三里塚開港阻止決戦に際しての三・二六包囲・突入・占拠のたたかいをひきつぐものであり、中東・朝鮮人民の陸続たる決起に呼応する八〇年代日本階級闘争への革命的水路をきりひろくものである。

さあ、この成果をうち固め、八〇年三里塚廃港決戦、防衛二法政悪阻止を頂点とする安保闘争の勝利へと結びつけるべく、一一・二二・一六三里塚現地闘争、一一・二二労共闘政治集会へと総決起しようではないか!



風雨をものともせず、10万署名総行動の頂点  
—ハンスト戦はうちぬかれた! (11・25 数寄屋橋)

事業認定切れ居直り粉碎!

二期工事阻止・飛行阻止・空港廃港

12・16 三里塚現地総決起集会

三里塚第一公園・正午

### 10万署名達成・「横堀団結の砦」完成の全成果をもって、12・16三里塚に総決起せよ

二月一五日で、三里塚空港建設の事業認定一〇年の期限が切れる。用地内農民にとってこの一〇年は、自分の土地を手ばなすことも、形状変更することも法的にはできず、またいつ強制収用されるかわからないといった権力が蹂躪され、その攻撃にさらされ続ける年月であった。

しかしその期限も、ついに一五日で切れるのだ。これはあくまで三里塚農民一四年の血みどろのたたかいによってかちとられるものであり、二期着工阻止、空港完全廃港への勝利の一步を印すということである。

一月二二日、大蔵省は八〇年度予算案において、緊縮財政とするため八〇年を初年度とする港湾、空港、都市公園等整備、海岸事業の四プロジェクトを八〇年度予算から見送りたい意向を示し、「成田空港二期工事の本格化は数年後に延ばさざるをえない」と判断している(毎日新聞)と示唆した。

一四年にも及ぶ三里塚農民のたたかいは、事業認定の期限切れのみならず、二期工事着工のための物質的条件、財政的裏づけさえも破綻に追いこんでいるのであり、廃港への可能な条件をつくりだしているのだ。

だがしかし、日帝大平は、事業認定が切れようが、財政的裏づけがなかつても、三里塚闘争が日本階級闘争の頂点をなし、革命の根拠地であり続ける限り、これを解体するため攻撃の手をゆるめるわけにいかないし、とりわけ、戦争策動をおし進めている現在、その国内体制づくりをむけ、二期着工、闘争破壊を狙っているのである。

したがって、一・二・一六闘争の第一の任務は、一〇年間の事業認定切れをたたかいとった用地内農民と連帯し、二期阻止、廃港への決意をさらにうち固めることであり、第二に、一〇万署名達成、「横堀団結の砦」完成ということである。

事業認定切れに際し、一〇万署名が達成され、新一団結小屋・横堀砦が完成したことは巨大な意義を有している。一〇万の人々が三里塚闘争に心を寄せ、勝利のあかつきまで三里塚農民と連帯しつづける新たな拠点が出来てきたこと、そして、それをやりぬいた人民兵士の存在は、日帝大平を震撼させずにはおかない。

第三に、一・二・一七崔大統領就任式に対し、維新体制完全打倒をめざしてたたかう韓国民衆に呼応し、戦争策動と対決するものとしてうちぬくことである。

一・二・一六現地総決起を全人民とともにうちぬき、さらに一年のたたかひのすべてをかけて一・二・二二労働政治集会を圧倒的にうちぬくことが、われわれに問われている。

### 11・12月総行動の勝利ひきつぎ、80年への展望をかけた12・22労働政治集会へ大結集せよ!

十二月四日、地裁・花尻に七万五千九百の署名が提出され、六日には十万人を突破した管制塔戦士一四名の家族達は、一・二・二二

五ハンストにつづき、四、六日と花尻に面接し、年内保釈を断固要求している。それに対し花尻がいかなる結論を出すにしろ、最後の結着は高裁にもちこされる。したがって、一・二・二二集会を前後する時期こそ奪還闘争の山場になるのだ。

一〇万署名運動はいまや全国に広がっている。全国に先がけて取りくみを開始したわれわれは、当初一万人を目標にしたが、一月八日の時点ですでに目標を突破し、現在四万にも達している。

三・二六戦闘精神をわがものとして、戦士をとりもどすため、また、来年廃港決戦への広大な陣形を築くべく、そして八〇年代闘争陣形の構築をめざして、昼夜を分かたずあらゆる人々、あらゆる団体に働きかけ、勝利的前進をかちとってきた。

この成果を何としても一・二・二二労働政治集会へと結実させ、管制塔戦士年内奪還をもぎとらなければならない。

そして一〇万署名運動の巨大な成果と意義を結集したすべての人々と共に確認し、さらに八〇年闘争をたたかひぬく意志と団結をつくりだすのでなければならないのである。

維新体制完全打倒にたち上った韓国民衆にこえ、80年安保をたたかう青年労働者の進撃つくりだせ!

一月に入って、イランをはじめとする中東・アジア全域での反米暴動、第一〇回アラブ首脳会議での米帝カーターの中東和平策動と対決する意志統一、OAPEC諸国による一二月一七日OPEC総会での原油価格三〇ドル台への値上げの動きと、八〇年代が米・欧・日帝国主義にとって決して平坦なものではない、そうした情勢がつくりだされている。

さらに朝鮮半島にあっては、一〇月二六日の朴の死後、維新体制の継続、朴なき朴体制をもくろむ米・日・韓反革命支配層に対し、一月二四日ソウルでの千名規模の「暫定大統領選出阻止国民大会」、二七日私立延世大での約千名の民主化要求学生集会、そして二八日韓国南部光州での政治集会、二九日ソウル・パゴダ公園での反政府デモというように、維新体制の完全打倒へむけた韓国民衆のたたかいが果敢に続けられている。

崔大統領代行の一二月六日国民主体統一会議による暫定大統領選出、一七日大統領就任は、決して安定した体制を保障するものではない。さらに深刻な内乱的危機を拡大する以外ではなく、それはとりもなおさず、崔体制を背後から支えている日米帝と安保「日韓」体制の危機へと連動せざるをえないのだ。

このような国際情勢の中で、日本でも、総選挙での大敗北以後、首班指名、党・閣僚人事、来秋総裁選をめぐって、自民党は主流・反主流へと真二つに分裂し、来年七月参院選の結果如何では二つの自民党が誕生するかも知れない重大な政治的危機が開始されている。公明党・民社党は、二月四日「中道連合政権」の基本的な路線と政策について合意し、「福祉日本の実現」と「総合安全保障の確立」を目標に、安保条約の存続、自衛隊の保持、原発建設の容認などを確認した。

かかる意志統一を基軸に、社会党を巻きこみ、自民党の一部との連合をも展望しているのだ。

社会党は、このような公明・民社に身をすり寄せ、連合政権の一翼を占めるべく、この間、社公中軸路線をうち出し、飛鳥田の訪米を機に、「日米合意のうえでの安保条約破棄」

と言いだし、事実上の「安保破棄」たな上げに向かおうとしている。

このような動きは、社公民、そして自民党の一部とも連合していくという、自社公民大連合政権、挙国一致体制への策動である。

しかもそのため「安保・自衛隊」を容認するというのだから、来年予定されている海上自衛隊の環太平洋合同演習(リムパック)への参加や、防衛二法の改悪にも反対せず、日帝ブルジョアジーの八〇年代を見すえた朝鮮侵略反革命戦争策動、それへの国民動員のもくろみを、たとえ自民党が分裂しようとしてそれに代って遂行していくという、きわめて反動的・反革命的な攻撃であることをはっきりと見きわめきらねばならない。

共産党は、このような社会党の動きに対して右傾化と批判しつつも、当面は衆院で八〇〇九〇人と議席をのぼすことを目標に、ますます議院政党内の傾斜を強めるだけで、決してかかる動きをのり越えられる勢力たりえていない。

このような政党レベルの再編と並行して、労働運動内部での再編が、同盟・総評指導部による反動的労働統一として進行している。

同盟の民間先行、労働組合主義や、国際自由労働同盟を条件とする反動的統一策動に対して、総評・富塚事務局長は、一月二三日「新しい中央団体が国際自由労働に加盟することを前向きに検討する」として、総評労働運動の右傾化を策している。

まさにこれこそ、労働者人民に背を向け、政党レベルによる戦争体制づくりと呼応する、ブルジョア代理人たちの労働運動内部からの反革命ムーブメントにほかならない。

以上のように日本帝国主義の体制的危機がますます深まっています。ブルジョアジーによる自社公民、そして労働運動の戦争体制への再編、朝鮮出兵への国民動員の攻撃がつよまっているのであり、七〇年代日本階級闘争の頂点をなしてきた三里塚・狭山闘争への解体策動、労働者人民との分断がもくろまれているのだ。今こそこのような攻撃と対決する青年労働者の進撃が問われている。

一年間の実践的総括をかけ、12・22集会の大成功をかちとり80年代への展望をきりひらけ!

かかる情勢のまったただ中で一・二・二二労働政治集会は開催される。

したがって一・二・二二集会に課せられた任務はきわめて重大である。七〇年代階級闘争ととりわけ七九年闘争の成果を防衛し、うち固め、第一に、韓国情勢の革命的発展にこえ、防衛二法をはじめ日帝のあらゆる戦争策動をうち破っていく、青年労働者の戦闘宣言が高らかに発せられねばならない。

第二の任務は、管制塔一〇万署名の意義と成果を確認し、戦士奪還集会としてかちとることである。

そして第三には、反動的労働統一に抗し、来春狭山・三里塚決戦への総力決起の意志をうち固めることである。

この一・二・二二、管制塔一〇万署名運動を通じて、農民、部落大衆、労働者、学生、各地のたたかう住民、文化人、弁護士など各界、各層の人々が大きく団結し、統一した運動を展開してきた。

このことは非常に重要である。ここに結集した力こそが、八〇年代の展望を切りひらいてゆく原動力なのであり、このたたかひにたち上った数多くの仲間と共に、労働政治集会の

大成功をかちとってゆくのではないか！  
われわれは署名・建設総行動を通じて、管制塔戦士年内奪還、三里塚廃港決戦への陣形づくりのみならず、八〇年代朝鮮出兵をうち破る闘争陣形構築をめざして、全党総力決起でたたかいてきた。  
かかるたたかひの成果を一一・二二に結実させることよってのみ、八〇年代への展望は切りひらかれるのだ。

釜山・馬山大暴動、そして朴の死をたたかいとった韓国民衆は、今また維新体制完全打倒へと進撃を続けている。一〇万署名運動に参加した一人ひとりが、そして反動的労働統一に抗してたたかう青年労働者が、心を一つにして大きな団結の輪を形成し、八〇年闘争において韓国民衆に応えられるようなたたかいつくり出すことこそ切実に問われている。すべての同志・友人・兄弟達！ 次ぎの一

〇年間の階級闘争を必ずや勝利に導くという大きな展望に立って、残された日々を一一・二二労働政治集会の圧倒的実現に向け奮闘しようではないか！

# 12・22労働政治集会

☆南部労政会館・午後6時30分

☆基調報告 中村進

☆講演 西村卓司氏（三菱重工長崎造船労組）

☆連帯のあいさつ 三里塚反対同盟・部落解放同盟・管制塔裁判を勝利させる会・管制塔被告家族・支える会・狭山全国実委・三里塚現闘団・学共闘 他

☆講演 西村卓司氏（三菱重工長崎造船労組）

## 第20回管制塔公判

11・26東京地裁

### 「航空危険罪」デッチあげ

あざやかに暴露される！

一月二六日、東京地裁において第二〇回管制塔公判が開かれた。検察側の航空危険罪立証の最終局面をむかえ、三・二六当日NP卓（北太平洋方面）で管制通信を行っていた中山管制通信官が証人として出廷した。

検察側は、一四階にあるマイクロ通信中継機器及びパラボラアンテナ、導波管の破壊により、予備の成田ローカルを使用したため、①出力の低下、②同時に二波送信できない、③周波数を変えるのに七秒かかる、さらに所沢の東京ACC（航空交通管制部）との連絡に商業電話を使用した。以上の点により東京FIR内（飛行情報区）を飛行中の航空機との国際対空通信業務（気象通報、位置通報等）に支障をきたしたとし、航空の危険が生じたなる立証を行わんとしている。

IR内に電波はとどいたこと、②、③についても周波数の切り換えは当日は行わなかった点、さらに東京ACCとの間にはその日のうちに直通回線が通じたことなどが明らかにされていった。

このように、一六階関係（当日現地周辺の警察・取材のヘリコプターが管制をうけられなくなったことにより危険が生じたなる検察側の主張）に引き続き、一四階関係についても検察側の立証は破綻をくりかえしているのである。次回公判は東京ACCの管制官・森本孝、さらに日航の機長・中村裕昭が証人として出廷する予定である。傍聴を訴える。

しかし、前回第一九回公判に証人として出廷した先任管制通信官・笠（りゅう）二郎による「後に他の通信官から聞いたところによれば、事件の時も予備（成田ローカル）のスイッチを入れたので現実の航空機との交信に支障はなかったと聞いております」という証言に続き、中山管制通信官も検察官の「支障があったのではないか」との尋問に対して「どうもよくわかりません」と答え、さらに弁護側の反対尋問の中で、三点にわたる機能低下に関して「私は技術的な事はわからないのですが」と言いつつも、現実問題として①の出力低下にあっても充分東京F

IR内にも電波はとどいたこと、②、③についても周波数の切り換えは当日は行わなかった点、さらに東京ACCとの間にはその日のうちに直通回線が通じたことなどが明らかにされていった。

このように、一六階関係（当日現地周辺の警察・取材のヘリコプターが管制をうけられなくなったことにより危険が生じたなる検察側の主張）に引き続き、一四階関係についても検察側の立証は破綻をくりかえしているのである。次回公判は東京ACCの管制官・森本孝、さらに日航の機長・中村裕昭が証人として出廷する予定である。傍聴を訴える。

### 管制塔戦士年内奪還！全国党建設にむけ

## 年末一時金カンパの圧倒的結集を訴える

### 共産主義者同盟（戦旗派）

全国の同志諸君！友人・支援者の皆さん！

この一年間、わたしたち戦旗派は、年若い青年同志の寝食を忘れた奮闘と、友人・支持者の皆さんのひたすらならぬ支援・協力に支えられながら、日本階級闘争の先端攻防を闘いぬいてきました。

地域・学園・職場での狭山・三里塚の闘いや、サミット粉砕、安保一日韓闘争など、わたしたちは戦闘的大衆運動の現場に人民の戦旗を高くかかげて闘いぬくかたわら、財政活動の着実な発展を基礎

として、現行印刷所の一層の充実や千葉・神奈川県南での地区党建設、三階建ての三里塚現闘小屋、

「横堀団結の誓」新築など、戦旗派の党としての前進を刻印するたたかひをも一歩一歩おし進めてきています。

しかしながら現在わたしたちには、総額六百万円以上と想定される管制塔三戦士の保釈金づくり、現在のB4版から更に大型の機関紙発行を可能とする新印刷所建設、来春三里塚・狭山決戦にむけた闘争資金づくり等々、ぼう大な資金

たたかう人民の新聞

# 戦旗

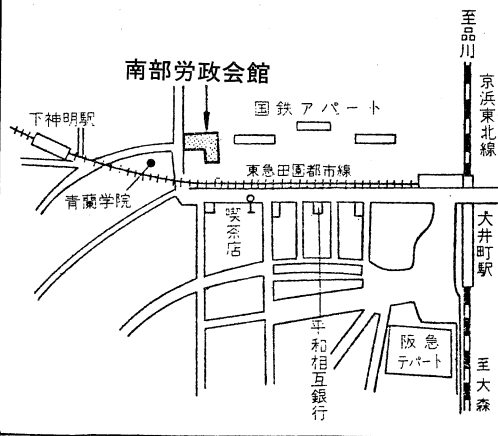
の定期購読を！

1部20回 2600円  
(郵送料を含む)

を必要とする課題が山積していま

深刻な不況の下で、厳しい一時金闘争を通して得られた同志・友人の皆さんの血と汗の結晶をビタ一文たりともムダにせず、戦旗派に寄せられる多大な期待を決して裏切らないよう、わたしたちは党をこぞって刻苦奮闘する決意であります。

日本人民の最良の息子として三・二六闘争を闘いぬいた管制塔戦士たちを一刻も早く人民のふところに奪いかえすために、そして戦争と革命の八〇年代を真ににないうる戦旗派のさらなる前進を可能とするために、すべての皆さんに年末一時金三割以上のカンパの集中を心から訴えるものです。



# 全国に巻きおこる管制塔支持の声

## 正義を求める人民の力で 年内保釈実現を！

### 12・4 地裁花尻に 署名七万五〇〇〇を提出

管制塔十四被告の年内保釈を求める十万人署名運動は、いよいよ最終局面をむかえた。

十二月四日、被告家族の保釈面接と共に署名七五〇九六人が地裁花尻のもとに提出され、六日には残り家族の保釈面接も全て完了した。

そして又、六日の全国署名集計は、既に十万余をはじき出している。

全国運動一ヵ月余にして署名十万余を達成したことは、管制塔占拠が、そして三里塚闘争がいかに人民の正義に立脚した闘いであったのかということを示し示すと共に、日本人民の良心がいかに健在であるのかを示してあまりある。

十二月、弁護団による保釈折衝が行われるとはいえず、相手が野心家花尻であってみれば、けっして樂觀できる状況ではない。

しかし、われわれは、この人民的正義にあくまでも依拠し、十五日の署名最終集約と提出へむけて、力の限りをつくし、十万人をはるかに上まわる人民の良心をよせあ

### 11・22統一保釈要求に続き 全国三カ所で戦士奪還ハンストを決行！

十一月二十二日管制塔弁護団による東京地裁への被告十四名の保釈請求書提出によって、年内奪還をめぐる攻防の幕は切っておとされた。被告家族・救済会・署名実委の被告年内奪還へむけた固い決意は、保釈請求書提出をうけ、ハンストの決行へと突き進む。

一一・二三、二五東京銀座数寄屋橋に反対同盟も決起！

東京地裁ののど元、銀座数寄屋橋におけるハンストは、二三日正午より二五日午後六時までの五四時間にわたって敢行された。

おりから三日間にわたって降りつづいた雨は、テントの中にも否応なくしみこみ、ハンスト者・防衛隊・宣伝隊は、ずぶぬれになりながら、しかし、獄中の管制塔戦士を想い、三里塚農民の苦節十四年に心をいたし、署名運動に課せられた試練としてこれを受けとめ、悪条件を克服していった。

この中には、三日間にわたって、埼玉の片田舎から、テントにかよいつづけた七七才と七八才になる水野被告のお父さん、お母さんの切実な訴えの姿、そして息子は管制塔外の開港阻止被告でありながらも、そのへだたりをこえ、高血圧の持病をおしてかよいつづけた笑顔の谷川さんの姿があった。

反対同盟農民は、二三日四名、二四日六名、二五日二〇余名と日に日に多くがかけつけ、自らマイクを握り、ビラをまき、署名をとって我が子を奪いかえすがごとく奮闘した。

三多摩から、市中行動を展開し、ハンスト現場にデモでかけつけた部隊の先頭には、全国家族会の佐藤さんの毅然とした姿があった。

「管制塔裁判を勝利させる会」世話人、福富節男氏、古屋能子氏、大井正氏、渡辺一衛氏、北爪安子氏、砂田弘氏もかわるがわるテントにかけつけ、マイクを握って東京都民に訴えた。

こうしたあらゆる人々の熱い想いこそが、ハンスト戦の勝利を導いたのである。



全国家族会、ハンストの最先頭にたちたかいいぬく！ (11・23 数寄屋橋)

二五日夜刻、五四時間ハンスト  
 うち上げの教寄屋橋街頭集會は、  
 首都圏各地から情宣を終えてぞく  
 ぞくと結集する仲間、開港阻止統  
 一被告団總會から合流した仲間、  
 二〇余名の反対同盟農民の結集に  
 よってふくれあがり、黒山の人、  
 人が街路を埋めつくした。  
 管制塔戦士に二度目の正月を獄  
 中で迎えさせてはならない、その  
 ために十萬署名を必ず達成するの  
 だという決意と確信を新たにさせ  
 ずにはおかない熱気が教寄屋橋を  
 おおったのであった。

神奈川、二三、二四両日横浜  
 駅西口で権力の妨害はねのけ  
 貫徹す！

数寄屋橋ハンストと連携して神  
 奈川においてもハンストが闘われ  
 た。

横浜駅西口広場での突入に対し  
 ては、国鉄駅長による退去勧告な  
 る卑劣な攻撃と、その意を受けた  
 警察の介入が画策された。

しかし四〇名にのぼる防衛・宣  
 伝隊は、昼夜をわかつた任につき、  
 又横浜市民のふところ深くわけ  
 ることにより、市民の暖い支持の  
 下、最後までハンストを守りぬい  
 た。

横浜市民の共感は、二日間を通  
 して二千名の署名、十萬円のカン  
 パに結実した。

このように、人民の正義と大義  
 をうちたてた管制塔被告の戦闘精  
 神を想起し、その保釈のために、  
 食を断ち、飢えと闘い、毅然とし

て訴える姿と、人民の良心にあく  
 まで依拠して闘おうとする姿が、  
 権力をよせつけなかったのである。  
 横浜二日間ハンストをうちぬい  
 た二四日夜の「管制塔戦士奪還・  
 十萬人署名貫徹神奈川集會」は、  
 岩沢吉井氏(反対同盟)や長谷川浩  
 氏をむかえ、八五名の結集の下、  
 熱烈にたたかいたられ、神奈川に  
 おける十萬署名運動躍進の画期と  
 なった。

## 12・8東京集会で 10万達成宣言！

十二月八日、「管制塔戦士の年  
 内保釈を勝ちとる東京集會」が、  
 品川区南部労政会館で十萬署名事  
 務局主催の下、三百五十の結集を  
 もってたたかいられた。

七〇年強制測量阻止の闘いを記  
 録した「三里塚三日間戦争」上映  
 につづく戸村氏追悼の黙とうと共  
 に集會は開催された。

開會のあいさつにたった反対同  
 盟秋葉救対部長は、わずかに四五日  
 にして署名十萬突破の驚異的事実  
 を報告し、十萬達成を満場の拍手  
 の中で宣言し、同救対部農山室  
 さんは、「獄につながれつづける  
 ならば、世間では悪いことをした  
 ということにされてしまう。何と  
 しても年内の保釈をかちとろう」

と訴え、北原事務局長は、「国家  
 の威信を粉砕した同志と真に連帯

関西、一一・三〇〜一二・二  
 京都三条河原で決行！

京都ハンストは、一九日から三  
 〇日にかけて一八大学をまわった  
 学生実委による署名キャラバンに  
 つづいて敢行された。

当日、三条河原一帯は、十萬署  
 名ののぼりが林立し、三〇余の宣  
 伝隊が終日署名運動を展開した。

する道として、十萬署名の力を八  
 〇年の夜明けを切り開く、十二・  
 一六へと結実させよう。」とよび  
 かけた。

管制塔戦士のように、やれ  
 ば必ずできる

管制塔裁判を一層しっかりと支  
 えぬく意欲を明らかにした「勝利  
 させる会」世話人渡辺一衛氏につ  
 づき、十萬署名事務局からは、「  
 十萬署名達成の中で、われわれは、  
 管制塔戦士のごとく、やれば必ず  
 できる、道はひらけるものだと  
 う確信をつかみとった。三里塚農  
 民と共に切りひらかれた地平をさ  
 らにおしひろげるべく十五日の最  
 終集約へ向け最後の奮闘を」と訴  
 えた。

「戦士への長期勾留は政治弾圧  
 以外ではなく、人民の力によって  
 しかこれをうち破ることはできな  
 い」と署名運動の意義を語りかけ  
 た管制塔弁護団杉井弁護人につづ  
 き、講演にたった角南弁護士は、  
 管制塔裁判がつかあたっては、弁  
 護人ぬき裁判策動の背景を明らか  
 にし、司法反動との闘いの重要性  
 を訴えた。

息子に一時も早い戦線復帰を！  
 アジア太平洋資料センター、労

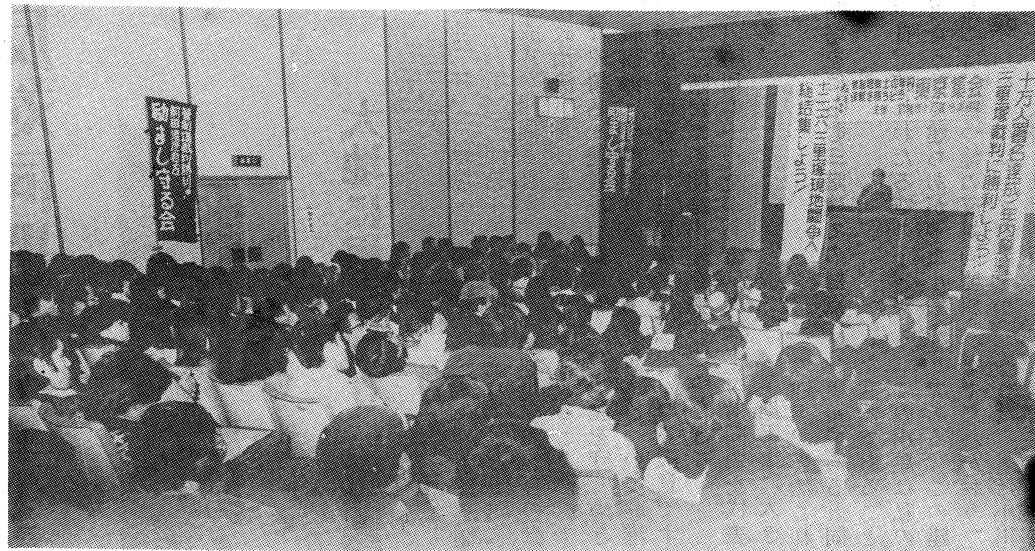
関西連帯する会は、これと結合し  
 て全関西の駅頭に進出するという  
 大々的な取りくみを行った。  
 ハンストのテントには、ひきも  
 きらず激励や交流を求める人々が  
 訪れ、関西においても人民の関心  
 の深さが確実な手応えとして受け  
 とめられていった。

こうして、この期間で、全関西  
 の署名は一万を突破したことが明  
 らかにされていったのである。  
 働情報、動労千葉の連帯アピール、  
 九州署名実委による署名一万突破  
 の報告につづき、最後に被告家族  
 救援会などの代表が登場した。  
 水野被告のお父さんは、「息子  
 が一時も早く皆さんと共に闘える  
 ようにしてやりたい。そして私も  
 闘う」と晴々とした笑顔で決意を  
 述べられ、お母さんは、「十萬は  
 できると思わなかったが、今、や  
 れば必ずできるのだと確信をもつ  
 た。花尻の首も必ずたてに振らせ  
 ましよう」と訴えられた。この両  
 親の発言には、心を動かされぬも  
 のはなく、満場の拍手はいつまで  
 もなりやまなかった。

こうして東京集會は、成功裡に  
 幕をとじた。  
 全国各地でも保釈要求集會

東京集會を前後して、各地で保  
 釈を要求する集會がうちぬかれて  
 きた。  
 十二月二日には、名古屋で、秋  
 葉さん、福富さんをむかえ、愛知  
 家族会結成(十一月一日)にふま  
 えた七家族八名の出席の下、百余  
 名の救援集會がもたれた。そこ  
 は、三里塚被告などによって、獄  
 中者は何を想い闘っているのかを  
 主題とした創作劇が上演された。

十二月五日には、関西において  
 三里塚集會が、津田被告のお父さ  
 んをむかえ、四百名の結集をもつ  
 て闘いぬかれています。  
 そして、十二月九日には、千葉  
 ・秋田・福島の各地で一斉に救援  
 集會が開催されているというわけ  
 である。



12・8 管制塔戦士奪還集會において、10万突破を  
 高らかに宣言！ 花尻追求の決意高まる (南部労政会館)



ハンスト戦とともに銀座一帯を署名部隊が  
 かけめぐり、3000を越える署名を集める

# 反対同盟との末永い団結誓い

## 横堀団結の砦 建つ！

### 大地に根をはり、現闘団先頭に、80年廃港決戦にむけ進撃しよう！

小屋明きのこの  
農民の発声

二月二日、三里塚・横堀部落において、第三一団結小屋の増築の完成式が開催された。  
秋期政治決戦をひきつぎ、息つく間もなく署名・建設総行動に突入した戦旗派・現闘団は、一〇万署名の達成を間近に、三里塚では初めての三階建ての団結小屋を完成させ、勝利の一つをかちとったのである。

#### 管制塔をにらむ三階建ての拠点

この日、晴れわたる空の下、爽快な風をうけて建ちあがった小屋の側面には、三つ輪の反対同盟旗と、「心を一つにして廃港をかちとろう」と大書された横断幕がかげられ、一階は日をうけてまぶしく銀色にかがやく。  
熱田一氏所有のこの土地に新たに建設された第三一団結小屋は、現地では初めての地上三階建て（高さ八メートル余）、間口四間、奥行四間、総建坪四〇坪の建造物で、軽量鉄骨で土台を支え、一階部分は全体が鉄板で溶接されている。横堀要塞となりにひかえ、管制塔をにらみつける砦は空港を威圧している。

これまでの「小屋」の域を脱して全面改築された「横堀団結の砦」は、「子孫末代まで三里塚の土とともに生き、闘う」三里塚農民の闘魂に学び、応えるものとしてうちたてられた。その意味で、この小屋は、三里塚農民とわれわれ戦旗派の不拔の団結をうちかためていくものとしてあるのだ。事実、反対同盟からの物心両面からの援助ぬきには増改築の成功はありえなかつたのであり、廃港決戦にかける同盟農民、戦旗派のみならず決意の結晶として横堀の大地にどっかと根をおろすべくうちたてられたのである。

#### 「団結の砦」を守りぬき、勝利に向けて進撃しよう！

この日正午すぎ、三〇名を越える反対同盟農民が各部落から祝いの式にかけつけ、石橋副委員長、熱田副行動隊長が三階に登って祝いのもちとみかんを空にまき、これを合図に式が開始される。全員がまかれたもちとみかんを手に手に三階の二四層敷の式場に

集まる。主催者側からは戦旗派を代表して笠置同志が「反対同盟の物心両面からの御協力をえて完成させることができました。今後この小屋を守りぬき、戸村氏の遺志をうけついで廃港までともにたたかひぬく決意です」と力強いあいさつを行う。  
反対同盟を代表して石橋氏は、「二期工事に大きな問題をもつこの地点、当然これはわれわれのシンボルであると同時に廃港へ向けた武器である」と訴え、熱田氏は、「この小屋は私の名譽であり、誇りである。この建物を基軸に最後までたたかおう」と力強くあいさつした。また小川源氏や石毛常吉氏は、小屋の完成を祝うとともに、「管制塔戦士の奪還をかちとろう」と訴える。結集した人々の顔がほころぶと同時に、二期決戦をひかえ、アプローチ・エリアにそびえる拠点としての重大性が全員の心をひきしめる。

その後、渡辺千秋さんの司会で宴会が始まった。まずは千秋さんの歌をかき取りに、同盟、支援交互に得意ののどを披露し、飲み、食い、大いに語りあい、かつてない交流が行われたのである。  
最後に熱田さんの音頭で、管制塔にとどけとばかり「団結ガンバ

ロー」を高らかに三唱して式はしめくられた。  
この小屋びらきは反対同盟をはじめ、約八〇名の人々が忙しい中かけつけてくれた。このように盛大に祝われた「横堀団結の砦」の完成は、敷地、作業場所からタタミ、窓ガラス、その他多くの備品に至るまで三里塚農民や支援者の心づくしによっている。  
そしてこれに応えようと建設に従事した現闘団・建設隊の奮闘のたまものである。

われわれはこのような三里塚農民の信義、支援者の熱い期待に心から感謝するとともに、これにトコトン応え、また現闘団・建設隊の奮闘をうけとめ、三里塚の大地に根をおろし、農民との内在的連帯を追求し、最後の勝利までたたかひぬこうではないか。  
りっぱな小屋にふさわしいたたかひと内実をつくりだすことを肝に銘じ、いざ廃港に向け進撃せよ！

#### 闘いのシンボルであり 廃港への武器だ

石橋政次副委員長

地主熱田さんの御好意によりまして、しかも二五〇メートルのアプローチの位置に三十一番目の団結小屋として戦旗派がここに三階建てという高層建築を建設しました。いままですい分小屋はあるわけですが、この中でもっとも高いのが二階であったのが三階になったのですから、三里塚での高層建築ということになるわけです。  
しかも、今後かかってくる二期工事に大きな問題をもつこの地点、当然これはわれわれの闘いのシンボルであると同時に、この小屋が廃港へ向けてのたたかひの武器となります。われわれは委員長をなぐしまして、いろいろ多事多難な今年であったわけですが、十二月二日に、この小屋の落成式を迎えまして、すべてのたたかう同志の今日ここに結集をみまして、



小屋完成を祝して石橋氏・熱田氏の手によってモチまきが行われた(12・2 横堀)

この祝宴をあげられることを、熱田さんはじめ多勢の方々の御協力を本当にありがとうございます。われわれも、今後は偉大な戸村さんの思想をうけつぎ、三里塚軍事空港を廃港に追い込むまでたにかいぬく、このことを誓います。わたしの方からのあいさつをはなはだ簡単ですが終わります。

**この小屋は私の名誉、私の誇りだ**

熱田一 副行動隊長

本日は、かかる小屋びらきに、多数御参加いただき、なお戦旗派の代表および副委員長から力強い御言葉をいただき、私をはじめ小屋の責任者以下、名誉とするところであります。七〇年も終らんとするこの時点、二期工区の激戦をむかえるであろうこの時点において、本館が建設され、皆様方のあたたかい志がここに結ばれたということは、この土地の所有者といたしまして、本当に力強く感じており、これからのたたかひの大きな原動力となるものと確信しています。

戦旗派がまだかつてない三階建てをたてたことは、われわれ用地をもつもの、あるいは反対同盟と一致団結してこの八〇年代に向けて感慨を新たに、勝利するまでたたかひぬくという一つの現れのように思うのであります。

**管制塔戦士の年内奪還を**

石毛常吉氏 (天神峯)

本当に今日はおめでとうございます。たたかひの本番をむかえる中で、この横堀の地に三階建てという今までにない建物を建築されたことは、喜びにたえません。

この建物を基軸としまして、拠点としまして、またよりどころとしまして、これから突破口を切りひらいていこうと考えています。どうか皆さん！この若いエネルギーを充分発揚して、八〇年に必ずや勝利をつかみとることをめざしともたたかひぬきましよう。

**小屋建設は同盟との団結のあらわれだ**

小川源氏 (木の根)

みなさん、おめでとうございます。本日、この横堀地区において、



小屋開きにかけつけた70名余の反対同盟・支援とともに熱い交流かちとる (12・2 三階広間)

**これからは わしらの方から反撃する**

小川嘉吉氏 (天神峯)

皆さん、本当におめでとうございます。今年もあと残り少なくなりましたが、権力は、われわれをもう追いつくことができなくなり、にっちもさっちもいかなくなったというのが現状であります。

この戦士達を何があんでも年内に奪還し、そして権力が「法」で追い出すこともできなくなった。今後は、一四年にわたってわれわれを弾圧してきた権力に対し、われわれの方から反撃していくことではないかと思えます。

戸村委員長の死を無駄にしないためにも、あくまで、がんばることを誓って、あいさつにかえさせていただきます。

龍崎久義氏 (辺田)

今日はおめでとうございます。となり部落の辺田からあいさつにあげられました。ともどもこれからがんばりますのでよろしく願います。

**二期闘争の一つの拠点だ**

岩沢吉井氏 (岩山)

今日の完成式に御招待いただきましてありがとうございます。皆さんも御承知のように、管制塔占拠を推進するために横堀に要塞ができました。ここに戦旗派の諸君が三階建てという建物を建てました。私はただ単なる団結小屋とは思っておりません。

うしろにあるのが要塞、ここは砦。この砦を拠点にして、二期工事を阻止、廃港へもちこんでいく一つの起点にしてほしいと、私は考えております。

私も二期工事の方々と共に、生死を分かちます。その意味で、ここを拠点にした諸君を、私は断固として支持するとともに、二期工事を完全に阻止して、廃港へという大きな目的の作業を進めてい

きたい。

**自分が権力を倒す**

信念でたたかう

島村良助氏 (東峯)

私も二期工事の用地内において、十三年間たたかひ続けてきました。今ここで権力が狙っているのは二期工事に対してであって、その二期工事のアプローチ地帯にこの大きな砦ができたことは、本当に私としては力強く感じているのであります。

このたたかひは自分がたたかうんだ、自分が権力を倒すんだという信念を持ち、そして人々が団結するところに、勝利があるんだと思っております。ともに廃港までたたかひましよう。

**一人ひとりがたたかう**

人間にならねば

鈴木幸司氏 (中郷)

どうも皆さん、おめでとうございます。私がおここに到着して一番先に目についたのは、この三階からおろされた横断幕、「心を一つにして、廃港をからちろう」という言葉であります。

心をつ一つにするということは、具体的にはいろいろあります。中郷にすれば、いま成田用水事業・基盤整備計画の問題を正しく解決しなければならぬと思うし、それには一〇・二一に青行が出した四つの項目があります。その中の「闘う農業」、これをやはり一日たりとも忘れてはならないと思えます。

これからは非常に厳しい状態が必ずきます。けれども、それをのりこえるには、たたかうことが勝利なんだ、たたかう以外にわれわれは何もなく、一人ひとりがたたかう人間にならなければならぬと思えます。

私は十四年目になって初めてかぜをひきましたが、皆さんもくれぐれも体に気をつけて勝利の日までがんばりましよう。

萩原亀吉氏 (住母家)

戦旗派の横堀城の完成につきましては、一月から大動員のもとに、本日の完成をみたこと、本当におめでとうございます。私も、二期決戦にむけて敢然とたたかひぬき、そして管制塔戦士の早期奪還を本当にたたかひぬきます。





# 韓国民衆の革命的精神をうけ つぎ、青年労働者の力で日帝 の戦争策動をうち破れ!

## 12・22労共闘政治集会基調報告

すべてのたたかう労働者の皆さん、農民・学生・市民の皆さん、  
七年階級闘争は、二月イラン革命、七月ニカラグア革命、そ  
して十月釜山・馬山蜂起による朴体制の崩壊として、史上かつて  
ない人民の勝利を次々と打ちたたてた。

日本の労働人民においても、既成政党の腐敗と墮落をこえて、  
大平の「安定多数獲得」のもくろみをうち破り、とりわけ管制塔  
戦士の保釈を要求する十万人署名達成の大きな力を発揮した。

ブルジョアマスコミの「協調と連合の時代」なる宣伝や、「フ  
ーリング世代」などというカクマルの小ブル的で皮相な世界観  
とはウラハラに、あくまで真剣でひたむきな人民の正義と大義の  
たたかひこそが、人民の心をゆり動かし、勝利をかちとる唯一の

道であることをこの上なくはっきりと照し出したのである。  
この確信を胸にきざみこみ、反動の嵐に敢然とたち向おうでは  
ないか。

防衛二法改悪を頂点とした八〇年安保の実質改訂の攻撃、三里  
塚二期着工・狭山再審棄却のもくろみ、そして労働者のたたかひ  
を押しつぶす反動的労働統一の攻撃。これらの日帝ブルジョア共  
の死活をかけた朝鮮出兵策動をうち破る一大戦闘宣言を共にたた  
かひとろうではないか。

人民の大義の旗を高くかかげ、八〇年安保粉砕、三里塚・狭山  
決戦勝利をめざして進撃しよう!

### 10万署名達成の力をうち固め、80年 代闘争陣形の構築めざし進撃しよう

三里塚管制塔戦士の年内奪還をめざした十  
万署名運動は、この四日、東京地裁花尻に対  
し七万五千余の署名の山をつきつけ、保釈要  
求の巨大な力をかちとっている。先月十五日  
第一次集約の時点では三万余にすぎなかった  
が、二十三―二十五日の東京教習屋橋でのハ  
ンスト決起を頂点として、全国での運動の爆  
発的高揚がつくり出されてきた。この勢いは、  
目標の十万達成を現実のものとし、さらに最  
終集約の十五日までには大巾な超過達成をか  
ちとりうるほどの発展をみせている。

われわれは、この十万人署名運動を全国労共  
闘のこの一年間の実践的総括をかけたものとし  
て、積極的この運動の牽引車たることを  
めざして奮闘してきた。その努力がいま、大  
きな成果として結実しようとしている。ここ  
において、われわれは、戦士奪還の実現にむ  
けてなお一層の奮起をかちとらなければなら  
ない。と同時に、この署名運動が何をつくり  
出したのか、その意義と成果をあらためてと  
らえ返していくのでなければならぬ。

#### 戦士奪還をめざし、司法反動と対決 する十万人人民の反撃をつくり出す

署名運動は、まず何よりも、こんにちの司  
法反動を許さぬ多くの人々の怒りと正義の声  
を、「戦士奪還」の一点に結集し権力につき  
つける偉大な成果をかちとった。

司法当局は、管制塔裁判をはじめとした開  
港阻止決戦裁判で、「数が多くて処理できない  
ことを理由に、被告らの統一公判の要求  
をふみにじって千葉―東京への分離・移送を  
強行した。そして、管制塔裁判の担当をみず

からかって出た坂本武裁判長は、まだ第一回  
公判もひらいていない時点で「月三回、年三  
十六回、二年で裁判のメドをつける」と宣言  
した。「審理をつくす」という法の大原則を  
投げすて、ただただ「迅速な審理」のみを追  
求するという悪辣な姿勢は、坂本にかわった  
現担当者花尻にもひきつがれた。そして、弁  
護団・被告の正当な要求をすべて切りすて、  
発言禁止・退廷を連発し、強引に審理のスピ  
ードアップをはかってきたのである。「あん  
なのは裁判じゃない」と叫ぶ被告家族の声は、  
法廷に立ちあつた誰もが感じる当然の怒りだ  
る。署名運動は、この家族の正義の叫びと  
心をひとつにしてうち抜かれた。

裁判官の裁量権をふりまわし、強権的訴訟  
指揮でデタラメな裁判をつづける花尻に対し、  
大衆的な決起で積極的な反撃にうってでたも  
のこそこの署名運動のたたかひだったのだ。  
「あんな裁判官じゃ保釈もとれない」「検事  
側立証が終るまでダメじゃないか」といった  
花尻の横暴さに屈するような消極的なたたか  
ひの立て方をわれわれの内部からとり払い、  
あくまでも人民に依拠し、大衆的反撃をつく  
り出すことで花尻を追いつめていくことをめ  
ざしたのである。

そしてたたかひははじめられた。被告家族、  
反対同盟農民が先頭に立ち、連日連夜、街頭  
で職場で学園で「戦士に二度目の冬を過ごさ  
せるな」と訴えた。「署名でお役にたつなら」  
と協力してくれた老婦人。「思想・信条の違  
いをこえて若者の基本的人権を守るため協力  
しよう」と呼びかけたヤリスト者。「オレた  
ちの戦士をただの犯罪者にしてはならない」  
と職場に署名を回してくれた労働者。「ロッ

キードの田中でさえ、起訴後すぐ保釈された  
のに管制塔の人が一年八カ月も出されないの  
は許せない」と怒る市民。さまざま人々が  
怒りをともにし、協力を与えてくれた。  
この運動の大きな爆発は、明らかに地裁花尻  
をつき動かした。教習屋橋のハンスト現場に  
は花尻の書記官が偵察にきた。そして運動の  
高揚と気迫に目をみはり、驚いてとんで帰っ  
ていった。

こうして寄せられた十万人の署名は、司法権  
力―裁判所の密室での強行を大衆的に弾劾し、  
「戦士奪還」を求める巨大な意志である。こ  
んにちの司法反動に抗し、戦士奪還・裁判官  
争勝利の大衆の力をつくり出したこと、この  
ことを共にたたかひたつたすべての人々と確認し  
ていきたい。

そして、われわれはこの十万人人民の総意を  
武器に、東京地裁花尻を追いつめ、十四戦士  
の年内奪還を何としてもかちとり、管制塔裁  
判闘争の勝利の突破口をきりひらくべくさら  
に前進しなければならぬ。

十二月十五日最終集約にむけて、十万人超過  
達成を必ず実現し、労共闘政治集会を戦士奪  
還集会としてかちとろう。

#### 二期阻止―廃港にむけた巨万の人民 決起の地平をきりひらく

署名運動の成果は、戦士奪還の力をつくり  
出したことにとどまらない。とりわけ、二期  
阻止―廃港の決定的正念場をむかえている三  
里塚闘争・三里塚農民にこの上ない勝利の展  
望をさし示した。

運動の中では、戦士奪還と三里塚闘争の大  
義を一個のものとして一大政治宣伝がたたか  
いとられた。またこれを担う側にあつても、  
「不可能を可能とした管制塔戦士の闘魂にこ  
たえて奮起しよう」と文字通り連日連夜のた  
たかひを展開した。そして、反対同盟を先頭  
に、家族会・救済会、さらに連帯する会や労

働諸団体など、三里塚をたたく広範な勢力が署名運動の中軸となつて全国でたたかいたくりひろげていった。まさに署名運動は、三里塚と全国をひとつに結びつけ、七四年戸村選以来かつてない大きな全国運動としてつくり出されていったのである。そして、三里塚闘争勢力がそれぞれの大衆の展開で署名にたどりつき、二期・廃港決戦にむけた大きなたたかひの活力をかくとくしていったのである。さらに重要なことは、この運動の大成功によって、「三里塚闘争は終わった」という政府マスコミ、そしてカクマル、「遠方」派の悪辣なデマ宣伝に決定的な痛打をあげたことである。今秋、九・一六を前にして警察庁幹部は「三里塚闘争はもう終る。その根拠のひとつは戸村委員長の重態(当時入院中)であり、もうひとつは『対話』をめぐる内ゲバが始まるからだ」と記者団に語つたと言われる。さらにカクマルや松本礼二の「遠方」は、「政府は二期をあきらめた。闘争終結の話し合いがはじまっている」と悪辣な宣伝をバラまいた。また十・二一南北統一行動を、「分裂集会」としてマスコミは宣伝した。

これら一連のデマ宣伝は、明らかに権力の「対話」攻撃と一体となつたものである。「二期をやらない」とか「闘争終結」のデマを流し、あまつさえ、必死になつて病いとたたかっていた戸村委員長のその死を予測して「もう終りだ」と宣伝し、たたかう陣形の動揺と分裂・解体をねらつてきたのである。

しかし、こうした敵の悪辣で卑劣な攻撃は完全に破産した。「対話」をきつぱりと拒否し、同盟農民の自立決起を宣言した「九・一六宣言」、そしてこれの具体化をめざした十・二一―十一・二三連月飛行阻止行動につづく、より決定的な反撃として、十万署名運動の超過達成ががちとられようとしているのである。

つぎに重要なことは、この成果が、十年間の事業認定切れをたたかいとらんとする用地内農民の闘魂にこたえた人民のたたかひの偉大な財産としてあるということである。不当な土地収用法にもついで用地内農民の土地にさまざまな規制をかけ、土地とりあげをはかつてきた事業認定が、この十六日に十年の期限が切れる。土地収用法でいう「十年を経過しても収用した土地の全部を事業の用に供しなかつた」という事態が現実のものとなつたのであり、当然にも二期工区の収用権は消滅し、すでに買収された用地に対する買受権も発生する。権力は「一期が完成しているから事業認定は有効」としてひらき直ろうとしているが、空港建設二期着工の合法的根拠は完全に喪われたことは明白である。このことは何よりも、用地内農民にとって、事業認定という「死刑判決」にもひとしい十年間の中でのがんばりが、ついに土地収用法を失効に追い込む成果として実を結んだのである。これは三里塚農民の輝かしい闘魂の勝利である。そして、管制塔十万署名の超過達成は、まさにこの十年間の事業認定切れをがちとつた用地内農民の闘魂にこたえる人民のたたかひの貴重な財産をつくり出したのである。

こうして署名運動は三里塚闘争において、きわめて重要な意義と成果をつくり出した。われわれは、三里塚をたたくかすすべての人々とともに、この運動のきりひらいた成果を、真に廃港をかちとる力へとうち固め、二期阻

止・廃港決戦勝利にむけた巨万の人民決起をかちとるべく奮闘しようではないか。

**一年間の実践的総括をかけたたたか  
いぬいた署名運動の成果をうち固め  
八〇年代へ進撃しよう!**

十万署名運動は、戦士奪還と三里塚闘争勝利にむけた大きな力をつくり出した。そしてこの大衆的で全国的な運動を積極的担いぬくことを通じて、われわれ全国労共闘は八〇年代闘争主体へと飛躍する上において、その具体的な足がかりを築くことができた。

われわれは、今年にはいつてから、これまでの「革命勢力の輪の拡大」をさらに積極的におし進めるものとして、これまで往々にしてあった安保―日韓闘争のみを戦略的課題としてとらえ、他は大衆運動といつたわれわれ自身の狭い政治的枠をとりはらい、三里塚・狭山のたたかひ、そして地域・職場・学園での各々のたたかひも、日帝・大平による戦争への国民動員をめざした全社会的再編の一環としてあることを明らかにしてきた。そして八〇年代闘争が、防衛二法改悪を頂点としながら、さまざまな領域での戦争にむけた人民への攻撃と対決するたたかひであることをとらえ、このたたかひの陣形を地域・学園・職場においてつくり出していく方向を確認してきたのである。

この方向の下に、狭山全国実委の恒常的・大衆的展開を再構築していくこと、さらには三里塚開港阻止決戦被告の奪還、裁判闘争勝利を担う守る会・支える会の新たな運動をつくり出していくことなどを、これまでの連帯する会や職場でのたたかひのとくりくみを一歩おし進めるものとしてかちとらんとしてきた。五・二〇三里塚、六・二三―二八東京サミット粉砕行動、そして十・二〇反戦講演集会は、こうしたわれわれの地域・職場における大衆的展開をひきつづぐ形において全人民的な政治決起をかちとらんとしたものであった。すなわち、この一年間を通じてわれわれは、八〇年代闘争にむけた広範な人民決起をめざしてたたかひぬいてきたのである。

十万署名運動は、こうした八〇年代闘争の主体と陣形をつくり出すものとして、その主体的・戦略的位置をつかみとることの中で、これを一個の戦争としてとらえ、個別救援運

動のレベルにとどまらない全勢力の総力決起でたたかひぬいた。

十万署名のほぼ半数近くを集め、この運動の一定の主導的な役割を果たしたことは、何よりも被告家族・反対同盟の奪還にかけた熱情をバネとした全党の主体的で積極的な意志をつちかうことによつてかちえたものである。

そして、すでに集めきつた三万の署名(五日現在)、勝利させる会や連帯する会をはじめとしたさまざまな仲間との共同行動、街頭・職場・団地での人々との交流は、この一年間のたたかひの総決算をなすものであり、八〇年代闘争にむけた貴重なたたかひの礎(いしずえ)に他ならないことをはっきりと確認していくのでなければならぬ。

とりわけ、われわれはこの運動の中で、人民大衆に依拠してたたかうことの実践的意義をしっかりとつかみとり、八〇年へのたたかひに生かしていかなければならない。われわれは、この運動の中で様々な人々に訴えた。年老いた人、高校生、主婦や銀行員、あるいはヤクザっぽい人。そして「こんな人が」と思う人が気軽に署名に応じてくれたり、逆に「これは」と思う人が仲々応じてくれなかつたりもした。こうしたことの中でわれわれのこれまで持っていた狭い価値感の否応なく打ち砕かれた。そして誤つた先入見を捨てて誰に対しても積極的呼びかけていくことが大きな成果につながつた。

さらに呼びかけていく際に、一方的な主張を述べるだけでは決して人々の心を動かさないこと、相手の存在や考え方をみきわめ、「この人は署名とどこで結びつくことができるのか」と考え、誠実に話していくことによつて一つ一つ成果をつみ重ねることができた。まさに署名運動は、われわれにあらためて人民大衆を信頼しこれに依拠することとは何か、そして、対象に則してその積極性を発揮する道とは何かを実践を通じて示したのである。このことを運動全体の検証を通じてつかみとり、八〇年代闘争に向けた全人民決起をつくり出す最良の糧としていくのではない。人民の大地にたたかひの種はまかれた。われわれは署名運動にたずさわつた多くの人々とともに、このたたかひの成果を守り、さらに水をやり、草をとり、肥料を加え、八〇年代闘争の勝利を真に人民のものとするべくあらたな決意を固め、決起しようではないか。

**韓国情勢の革命的発展に  
安保粉砕! 日「韓」ゆ着をうちくだ  
こう!**

イラン・ニカラグア・韓国とかつてない激動がこの一年をたぬいた。しかし、これは何ら突発的偶発的なものではない。八〇年代のより巨大な革命情勢がこれからはじまろうとしているのだ。帝国主義支配者共は、危機の脱出として、中東・中南米・アジアなど「第三世界」への矛盾の転嫁、強収奪・強権支配を激化させる以外にその延命を見い出すことができず、またそれゆえに人民の巨大な反撃をつくり出し、さらなる危機に打ちのめされてしまふという、まったく出口のないどん

づまりの危機におちいつている。

この世界的激動は、すでにスタスタにさ

よつてはじめて終息する以外ない。したがって、すべての労働人民にとつて問われているのは、追いつめられた死の苦悶にあえぐブルジョア支配者共と命運を共にするのか、被抑圧民族人民の勝利のために貢献するのか二つに一つである。

われわれは断固として後者の道に全人生と全存在をかける。日米帝国主義者と朴独裁による暗黒支配に抗して決起した韓国YH貿易の女子労働者は「ひざを屈して生きるより、立ったままで死のう」と呼びかけた。この決意は、決して韓国民衆の絶望感・悲愴感を示すものではない。死をも恐れずたたかうことの中に人民の未来の光をはつきりととらえて



韓国民衆の闘いは緊急措置9号解除をかちとつた！  
たたかいぬいた夫や父の釈放を待つ政治犯家族たち  
(12・7 ソウル拘置所前)

て行われた。人民の首をおさえつけ無理矢理押しつけるものが「民主化」などであるはずがない。これは釜山・馬山峰起をたたかいた韓国民衆に対する懐柔策であつてそれ以外のものではない。韓国民衆は「われわれは民主回復がなされるだろうと信じて静かに待ってきたが：：：崔圭夏大統領代行は維新体制を継続しようとしているのが明白であるため、われわれは再び民主回復をめざして闘うほかない」と決議文を発し、新たなたたかひに向けた決起を準備している。朴独裁が決して朴自身によってつくられたものではなく、こんにちの日米支配による最も有効な民衆支配としてあつたものだということは、今後一年も経ないうちに明らかなる事実として浮かびあがってくるだろう。そして、「朴なき朴体制」は、朴よりも弱いがゆえに韓国支配を全面的に担うことができず、その本質的な階級支配の主人公である日米支配者が韓国民衆

### 戦争をめざす日帝の反動攻撃と対決し、青年労働者の戦闘的決起をかちとろう！

「朴なき朴体制」を許さぬ韓国民衆決起に応え、安保一日「韓」体制打倒へ総決起せよ！

われわれ戦闘的労働者の八〇年闘争へ向け「第一の任務は、韓国情勢の革命的発展にこたえ、安保一日「韓」体制打倒へ総決起することである。韓国は、十・二六朴射殺後戒厳令体制の下におかれてきた。十一・三朴葬儀後十日間で「秩序を乱す不良分子」という名目で三五一人が戒厳司令部へ連行、うち六七六人が逮捕された。そして、この強権支配によって民衆決起を力で封じこめ、動揺する韓国支配の立て直しをはからんとしてきたのである。十二月六日、維新憲法にもとづき、統一主体国民会議という朴の御用機関によって、崔圭夏(チェ・ギョハ)が大統領に選出された。そして七日、崔は「緊急措置九号」の解除を決定し、この違反者として連行・勾留された者の釈放、さらには金大中の軟禁をも解除した。

こうした朴なき後の崔新体制の「漸時的改革」に対し、日米支配者共はこぞって歓迎の意を表明している。しかし、この「上からの民主化」は全くきまんのものだ。戒厳令はいまだ全土にしかれ人民の政治決起を抑えつけている。金芝河をはじめとした反共法による投獄者らはいまだ獄中におかれている。崔の大統領選出は、多くの民主人士たちの「統一主体国民会議による大統領選は認めない」という声を無視し

八〇年闘争に向けたわれわれの第二の任務は、反動的労働統一に抗し、戦争への国民総動員をめざす日帝・資本の反動攻撃をうち破る労働者の戦闘的決起をかちとることである。日帝大平による八〇年代の強権支配実現をめぐらんだ七九年総選挙は、自民党の敗北に終わった。政治支配は安定に向かうどころか一層の混迷をつくり出したのだ。しかし、日帝ブルジョア支配の延命をかけた「総合安保戦略」と、これにもとづく社会経済体の全面的再編のめぐらしたみは、政党支配の混迷の中にあつても着々とその実現がはかられようとしている。

たしかに「一般消費税」の来年度導入は見送られた。しかし、第二次大平内閣の大蔵大臣となった田中派の大番頭竹下登は、「行政改革を実施したうえで：：：新たな国民負担というものについて理解をえていく」として、四〇兆円にのぼる国家財政の破産を再建していく道が、基本的に増税しかないことを明らかにしている。「まず歳出を徹底的に抑制する、増税や公共料金の値上げはそれから」と言いつつも、来年の国鉄運賃・消費者米価・郵便料金の値上げは確定されている。さらに石油製品の高騰もはじまっており、電力料金値上げも準備されている。すでにインフレ・物価攻勢の引き金は引かれているのだ。

これに加えて、「行政改革」が労働者人民への悪らつな福祉切り捨て・公務員合理化としてかけられようとしている。「行政改革」は鉄建公団や住宅公団の不正・汚職、あるいは「天下り官僚天国」に対する人民の批判としてつきつけられた。政府はこの世論の声に

の前に立ちあらわれる事態が必ず到来するのだ。すでに日米は、昨年十一月、対朝鮮共同作戦のためのガイドラインを設定し、今夏の山下防衛長官の初訪韓、釜山・馬山峰起の渦中の米韓安保協を通じて、日米韓の軍事一体化を強力に推し進めてきた。そして、この戦略的方向の下で、日帝は、来年度F15戦闘機導入、リムパック(環太平洋合同演習)をはじめとした合同演習の拡大、防衛二法改悪を準備し、朝鮮有事の出動態勢をうち固めようとしているのである。

日米支配者共は、崔新体制による組閣をまわつて八〇年初頭から、米韓合同海軍機動演習「マジックスター八〇」の開始、さらには「韓定期閣僚会議」の開催をめぐらしている。「朴なき朴支配」の実現に向けた日米帝の必死のまき返し、安保一日「韓」体制による反革命攻撃がすでにはじまっているのだ。こうした韓国の内戦的事態のつまりの中で、いまこそ日本の労働人民の歴史的負債にかけた決起が問われている。韓国民衆を「自国の安全と繁栄」の名目で軍事支配を強要し、隷属的な経済支配によって強収奪をつみ重ねてきた日韓支配者共のどす黒い癒着をいまこそ打ち砕こうではないか。

韓国民衆の決起に応え、安保一日「韓」体制の打倒をめざし、日韓閣僚会議粉砕、防衛二法改悪阻止の総力決起をかちとろう！

押されて「行政機能を必要最小限の公的機能にとどめる」として行政改革へ重い腰をあげた。しかし、そこで打ち出されたものは、老人医療の有料化、児童手当の全廃、教科書の無償配布の見直しであり、公務員定数削減という官公労働者の大合理化である。

肥大化し治安軍隊化した警察機構や侵略軍隊の道を進む自衛隊には全く手をつけず、ただでさえ貧困な福祉行政を切り捨て、破格の特待をうけている「天下り官僚」ではなく、労働者の首を切ることによって行政改革を行うというのである。大平は「従来を上回る規模で国家公務員の定数削減をすすめる。骨に達するまでやったといわれる実績を残したい」と行政改革の決意を語っている。それはまさに、人民の骨にまで達する福祉と労働者の切り捨てである。

この行政機構の再編をはじめ、弁護士法・監獄法・少年法・教育基本法・農地法・労基法など戦後日本の政治的骨格をなしてきた基本的枠組の改悪が、防衛二法改悪を頂点としてもくろまれていく。

とりわけ労基法の改悪は、「母性保護規定(生休や重労働・夜間労働の規制)」の撤廃と、「争議への行政介入の新たな制度・機構の新設」をもつて政府自らが争議つぶしをはかるうとする全くもつて許すことのできない攻撃である。こうして、八〇年代の前半において、日帝ブルジョア共はこれまでの人民の既得権をとりあげ、働くこと、生きることに権利をこれまで以上に抑制することによって、戦争への国民総動員をめぐらしている。まさに八〇年代は、人民ひとり一人の人生と生活

を大きく規制するこれらの反動攻勢に立ち向かうことを鋭くつきつけているのである。われわれは、こうした八〇年代の階級攻防の深化と広がりをおぼえ、あらゆる地域・職場において徹底的で非和解的な反撃をつくり出していくのでなければならぬ。

**資本に屈服し、戦争への道をひらく**

**反動的労働統一を突き破れ**

現在動きはじめている「労働戦線統一」は史上三度目のものである。一つは戦前、三〇年代の恐慌と戦争への過程での「日本労働組合会議」の結成。これが産業報国会へ道をひらいた。二度目は六七年当時の全通宝樹の提唱によるものである。いずれも第二インターの路線を踏襲して政治闘争には組合主義を、資本との対決には反共主義と協調を対置した。この「統一」の美名の下での右からの労働戦線の再編が、七四年石油危機、高度成長の破綻を機に動きはじめ、八〇年を前にして全面に登場しようとしている。鉄鋼労連(中村)、ゼンセン同盟(宇佐美)、電気労連(堅山)、天池同盟会長、富塚総評事務局長。これらが「統一」の旗をふりながら、労働運動総体の帝国主義的再編の推進役として動き出しているのだ。

そこでもくろまれていっているものは何か。それは、「労働組合主義」と「国際自由労連」への加盟を踏み絵として、戦闘的労働組合や活動家を排除し、労協調の名の下に資本と命運を共にしてこの危機を救済しようとするものである。これは単にたかかわない組合の「統一」だけではない。その先には、社・公・民の政党再編とこれにもとづく保守・中道の連合政権樹立がある。そして他方では、全電通沖繩・東北ではじまった「再確認」―統制処分(中央の指導に従わないなら組合をやめる)のように、「統一」の名のもとに労働者の戦闘的決起を抑えこみ、これを批判するものを資本と一体となって処分―首切りによってたたき出すという戦闘的労働運動つぶしをねらっている。まさに「労働統一」は労働戦線の反動的再編をはかるものであり、労働者の反撃の芽をつぶし、日帝・資本の危機の安全弁をつくり出すものである。

そして、自衛隊・安保の積極的肯定、原発・空港などの巨大開発促進、合理化をはじめとした産業構造の転換、さらには日韓支配構造の防衛を労働者の側からかかけることにより、労働者階級の階級性を根底から一掃することをめざしているのである。

この攻撃に、これまで曲がりなりにも同盟・JCなど帝国主義労働運動と一線を画してきた総評が加担しようとしている。

なぜ「統一」なのか。富塚は言う。「総評の伝統を守り、仮に左の看板を背負って、小さくなくてもこじんまりしてやっていくのもひとつのやり方である。しかしそれは一面では袋小路に閉じこめられ足腰が立たなくなってしまう。その時、労働者はどうなる。総評はどうなるかを考えるべきだ。われわれの内部の弱さを目を向け、いかにわれわれが包囲されているのか、これを決して甘くみてはいけない。」

つまり、敵に押しこまれていながら、敵と手を結ぼうというのだ。これこそ高成長期には大幅賃上げを、危機になったら要求をダウンし、「雇用確保」へズルズル後退し、二組・

戦前の暴力的組合破壊に反撃することもできなかった総評指導部の敗北の姿である。総選挙に敗北した社会党が、八〇年参院選へ、社公協力にふみきろうとしていることも、この総評の屈服を大きな要因としているのだ。

こうして、八〇年代の決定的な階級対決の正念場を前にして、労働者階級の戦列はその主体の弱さをさらけ出した。しかし、相次ぐ春闘で敗北感にうちひしがれ、右派の「統一」に危機感をもって「バスに乗り遅れまい」としているのは、たかかわない組合であり幹部だけである。

全金南大阪、全金本山、沖電、ベトリ、そして三里塚をたたかう動労千葉、漁民とともに火電反対をたたかう石川県評、原発反対に立ちあがった電産中国など、政府と資本を悩ます労働者の戦闘的決起をかちとってきた職場は、富塚の裏切りに怒り、「右派が、見切り発車」というなら、左の側から見切つてやる」と新たな決意に燃えている。資本・戦制・二組から官憲まで総ぐるみの攻撃に対決してきたこれらの戦闘的労働者は、「労働者は『統一』など望んでいない。求めているのは資本と堂々とストライキで対決しうる逞ましい労働運動だ」「二組の連中とどうしてスクラムが組めるか」「大同団結に幻惑されて少数派になることを恐れるな」と当然の怒りの声をあげている。

資本に隔らされている労働官僚に対する反撃は、何よりもこれら戦闘的労働者のたたかいをもつての大衆的反撃以外にない。われわれはたたかいの中でたたかいをつくり、たたかう労働者をはぐくんできた戦闘的労働者のたたかいかいに学びぬき、一切の反動攻撃と非和解的階級的対決をつくり出すべく撃つて出るのでなければならぬ。地域・職場に反撃の砦をつくり、たたかう魂をひとつにして大衆的決起で「統一」の壁を突き破ろうではないか。

**部落大衆・農漁民と内在的に連帯し、狭山・三里塚決戦に勝利しよう**

われわれの第三の任務は、権力の差別・抑圧攻撃の頂点にたつ狭山・三里塚決戦に総力をあげて決起し、部落大衆・農漁民と共に勝利をかちとることである。

狭山・三里塚のたたかいは、獄中十七年の無実の石川氏をはじめとした部落大衆の「狭山思想」、そして権力とあくまで非妥協でたたかう三里塚農民の闘魂が多くの人民の心をつき動かす、またそれ故に権力の憎悪をも一身にあつめてこれを十数年間にわたってね返しつづけてきた。七〇年代を通じて日本階級闘争の頂点に立ちつづけてきた狭山・三里塚のたたかいは結びつくことなくして、どのような人民の勝利もありえない。

とりわけ、われわれ労働者は、「労働運動は農漁民から期待されているが、信頼されていない」(七八年秋、「地域共闘強化全国交流集会」での三重・三紀地区労の提起)という事態を深刻にうけとめなければならぬ。すなわち、「農漁民にとっては生命がけのたたかいであることを理解しないかぎり、労働組合はこのような住民運動を担えない」(石川県評の提起)。まさに、たたかう部落大衆・農漁民とどのように連帯しうるのか、労働運動の階級的革命的現実を問うものとしてあるのだ。

戦前においては、労働運動が産業報国会の道を歩むことの中で、水平社との団結を労働者の側から断ち切ってきた。また近くは、水保病患者の必死の抗議にチンソ労働者が「会社がつぶれる」と言って敵対し、佐世保重工の愛友会は、「会社再建」のために原子力船「むつ」をうけ入れた。さらに動労カクマルは、労働者階級が立ちあがらなければ勝利はない」という人民の切実な期待と訴えの上にあぐらをかき、「オレたちがヘゲモニーをとらない闘いは階級闘争じゃない」と人民のたたかいへの敵対をつづけ、自らの階級性を解体させ、資本の論理にからめとられてきたのだ。

われわれは、こうした労働官僚やカクマルの思いあがり和本工プロレタリア主義をわれわれ自身の内部から掃きなければならぬ。そして、われわれ労働者の階級主体としての飛躍をかけて、たたかう部落大衆・農漁民との内在的な連帯をかちとるでなければならぬ。われわれは、「戦争と差別を許さない二・一二集会」や「横掘団結の砦」建設をたたかいたことを通じて、この一年間、部落大衆・三里塚農民との内在的連帯をめざし決起してきた。このたたかいはふまえ、八〇年こそは石川氏の完全無罪をたたかいとり、三里塚廃港の勝利を人民のものとして、総力決起しようではないか。

すべての同志・友人のみなさん、われわれ全国労共闘は、十二・二二集会を八〇年安保粉砕、狭山・三里塚決戦勝利の一、大戦闘宣言をたたかいたとる場としてうち固め、八〇年代闘争の戦列をともにかちとることを心から訴える。

帝国主義支配者共の危機と混乱はかつてなく深まっている。そして人民の憤りはますます高まり、勝利の条件は一層広がっている。八〇年代こそ人民の勝利の時代である。労働人民の団結をうち固め、ともに最後の勝利までたたかひぬこう